

01 本庄駅北口周辺が目指すものは…

なぜ今、本庄駅北口周辺の整備？

本庄駅北口周辺を取り巻く現状と受け止めるべき課題

歴史的背景

中山道最大の宿場町として栄えた歴史の面影を残すまちなみ

本地区は、江戸と京を結ぶ中山道沿いの「本庄宿」としてまちが形成され、**中山道最大の宿場町**として栄えてきました。明治に入り近代化が進む中、官営富岡製糸場が設置されたことに始まり、高崎線の開通や本庄駅の開業などにより、繭や生糸が集まる「**養蚕と絹のまち**」本庄町となりました。

大正時代には本庄繭市場の開設等さらなる発展を遂げ、昭和29年には隣接する4村との合併により本庄市となりました。昭和62年には橋上化された新しい本庄駅の駅舎が完成し、**新たな「まちの玄関口」**としての役割を担うこととなりました。平成18年に旧児玉町との合併により新「本庄市」が誕生、そして令和となった現在においても、養蚕のまちとしての繁栄を今に伝える旧本庄商業銀行煉瓦倉庫など、**歴史を感じさせる雰囲気を本地区の特徴**とする声が多くあります。



繭の出荷でにぎわう本庄町

昭和54年ごろの銀座通り

政策的課題

「まちなか再生」を重点施策とした政策展開

平成30年3月に「本庄市立地適正化計画」を策定し、本地区を含む本庄駅周辺の「**まちなか再生**」を重点施策としています。都市の空洞化が進む今、まちなかに再び目を向け、インフラ整備等に取り組むことでまちなかに人を呼び戻し、子どもから高齢者まで**幅広い世代が安全・快適に暮らせ、回遊・滞在の楽しさを感じることが**できる環境づくりが必要です。

社会的課題

進む人口減少・少子高齢化への対応とにぎわいの創出

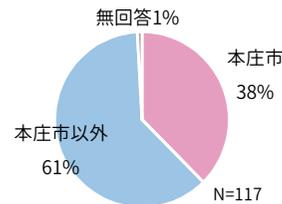
本市全体として人口減少・少子高齢化が進んでいる中、**本地区はそれを上回るペースで進行**しています。戦災の影響が少なかったこと等により古くからのまちの区画や、昔ながらの路地が残っていることが本地区の特徴である一方、**建物の建て替えや土地の有効活用の支障**ともなっています。にぎわいの中心であったころの面影等を大切にしつつ、**今を生きる人や歴史的価値のある資源等を活かし、持続可能なまちへと結びつけていく**ことが課題です。

ポテンシャル

交通・生活利便性が高く、多くの人が行き交う環境

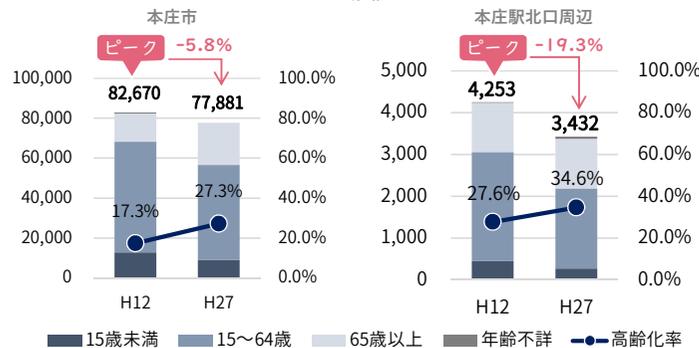
JR高崎線や群馬県南部方面へ接続する幹線道路などにより交通利便性が高く、大型商業施設や金融・公共機関、はにぼんプラザ等、**人々の生活を支える多様な機能が集まるポテンシャル**（可能性、潜在力）の高い地域です。本庄駅利用者の約6割が市外在住、さらにその多くが通勤や通学等で日常的に利用しており、日々、様々な方面から人が集まり、行き交う環境にあります。

本庄駅利用者の居住地



出典：H30本庄駅鉄道利用者ヒアリング調査

人口推移

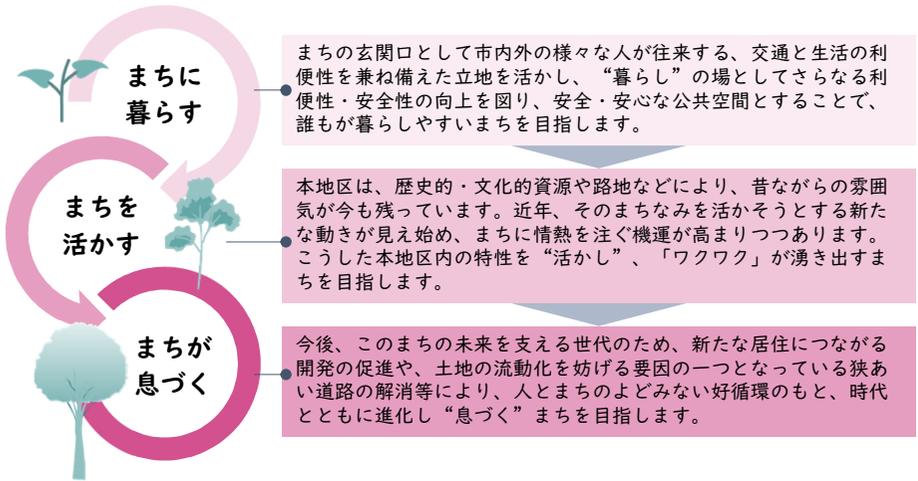


出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

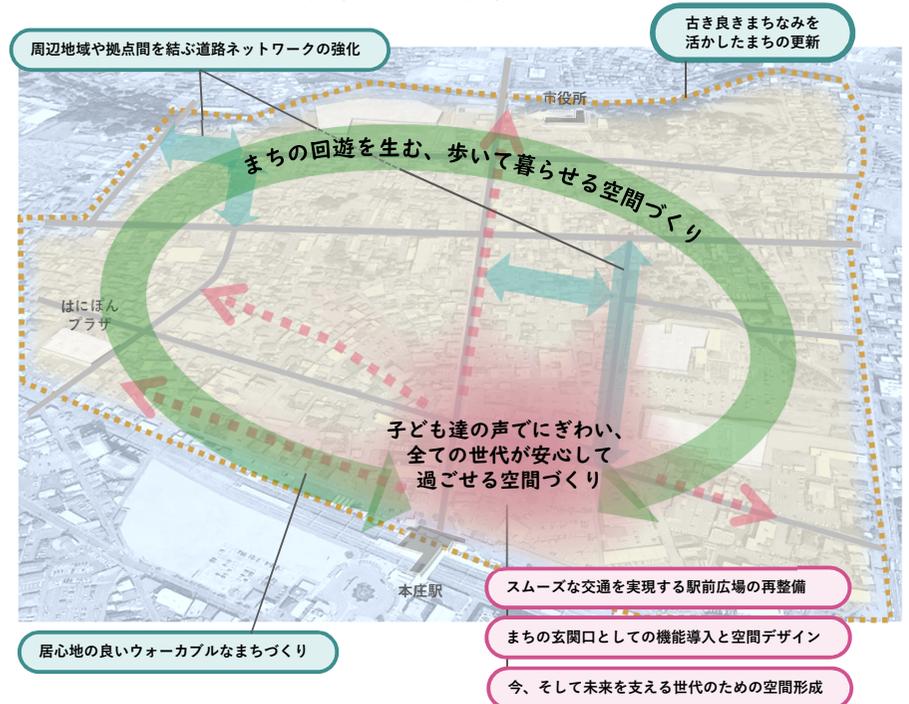
本庄駅北口周辺の将来像

まちづくりのコンセプト

まちに暮らし、まちを活かし、まちが息づく



本計画による事業イメージ



02 駅前街区の整備方針

駅前街区周辺の主な課題

- ・人口減少と少子高齢化が進み、にぎわいが低下
- ・滞留する目的、機能がなく素通りする人が多い駅周辺

・歩行者が通り抜ける細い路地

・商業施設への低いアクセシビリティ

・朝のピーク時には歩道からあふれながら列をなす小学生や高校生

・狭小で、送迎車両が混雑するロータリー

・老朽化した公衆トイレ

・分かりにくい送迎専用駐車場

・歩行者と車両が錯そう

・バスを待つ学生で混雑

- 開発用地に関する課題
- 歩行空間に関する課題
- 車両走行空間に関する課題

※国土地理院基盤地図情報（令和元年9月4日時点）を加工し作成

□基本方針

子ども達の声でにぎわい、全ての世代が安心して過ごせる空間づくり

1 スムーズな交通を実現する駅前広場の再整備

1-1 歩行者と車両の動線を整えるとともに、送迎車の利便性向上を図ります。

2 まちの玄関口としての機能導入と空間デザイン

2-1 多くの人が利用する「まちの玄関口」として、誰もが立ち寄りたくなる機能の導入を図ります。

2-2 高齢者や障害者等、誰もが安心して過ごせる居心地の良さや、本庄らしさを感じる空間デザインに努めます。

3 今、そして未来を支える世代のための空間形成

3-1 若い世代の居住を促す住宅開発の誘導に努めます。

3-2 子育て世代の暮らしや若者の学びを支援し、新たな交流を生み出す機能の導入を図ります。



駅前街区周辺

住民や駅利用者の声！

- 市内で住み替えるなら駅に近く歩いて暮らせる場所が良い **46%**

出典：H28本市総合振興計画市民アンケート調査

本庄駅前の印象は？

- 駅周辺は寂しい・暗い
- 照明が少なく、夜間暗いと感じる
- 通勤通学時に混雑していて利用しにくい
- 送迎車の待機場を充実して欲しい

出典：H31市民ワークショップでの主な意見

駅前街区の整備計画

「駅前広場」と「開発用地」整備によるにぎわい・暮らしの空間形成

1 スムーズな交通を実現する駅前広場

1-1 利便性が高く、安全・安心な駅前広場

- ✓ 送迎車の待機場所を十分に確保するとともに、分かりやすい位置に配置
- ✓ 開発用地の整備と合わせて朝日通り側への出入口を新設し、交通利便性の確保と街区内の車両の流動を分散
- ✓ 車両と交錯しない歩行空間の確保により、通学路としての安全性を確保

2 まちの玄関口としての機能導入と空間デザイン

2-1 誰もが立ち寄りたくなる機能の導入

- ✓ 駅利用者だけでなく、近隣住民を含めた多くの人立ち寄る商業機能や公共機能の誘導
- ✓ 公民連携によるにぎわいが持続する仕組みづくり

2-2 居心地の良さや、本庄らしさを感じる空間デザイン

- ✓ バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮した舗装、ベンチ、雨にぬれずに移動できる連続した屋根等の整備
- ✓ 明治・大正時代を連想させるレトロ感、情緒ある本庄らしい空間デザイン

3 今、そして未来を支える世代のための空間形成

3-1 若い世代の居住を促す住宅開発の誘導

- ✓ 利便性が高く、居住地としての需要も高い駅前における住宅開発の誘導

3-2 子育て世代や若者が集う、子育て・学びの機能導入

- ✓ 子育て世代が滞在・交流できる機能や若い世代の学びを支援する機能の導入
- ✓ ベビーカーを利用してゆとりある歩行空間、授乳室やユニバーサルデザインに配慮したトイレなど、子どもと一緒に利用できる機能の確保

駅前街区の整備イメージ

・車両交通を整え、分かりやすい送迎車待機場所を確保

・本庄らしさを感じられる情緒あるデザイン

・朝日通り側への出入口を新設（駅ロータリー内への流動を分散）

・車両と交錯しない安全な歩行者動線の確保

駅前広場用地

・駐車場用地も含めた民間・公共開発が可能な用地を広く確保

・駅前の利便性を活かした「暮らしの場」の誘導

・子育て世代や若者の利用を想定した機能への配慮

・高齢者や障害者等、誰にとっても憩いの場となる開放的な広場や歩行空間の創出

本庄駅

開発用地

- 開発用地に関する整備
- 歩行空間に関する整備
- 車両走行空間に関する整備
- 駅前街区全体に関する整備

※国土地理院基盤地図情報（令和元年9月4日時点）を加工し作成

03 道路の整備方針

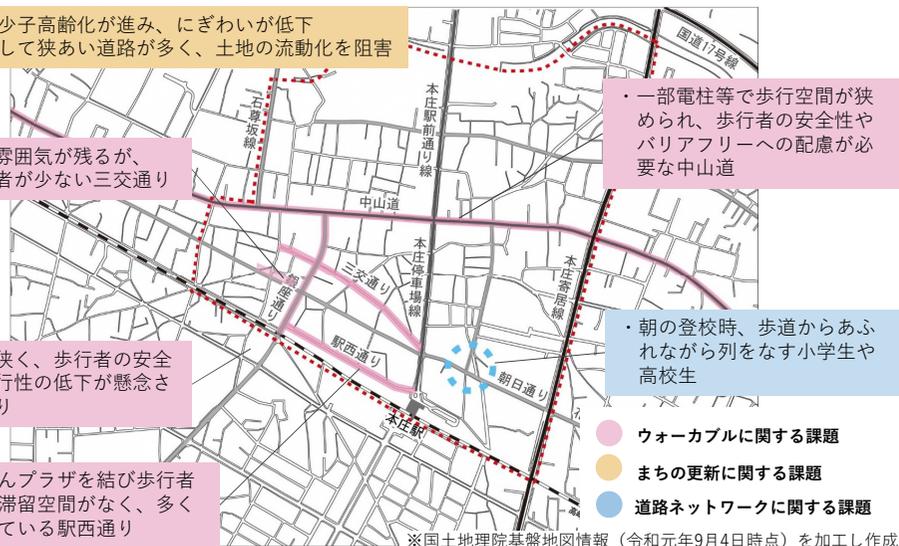
本地区内の道路における主な課題

- ・人口減少と少子高齢化が進み、にぎわいが低下
- ・地区全体として狭あい道路が多く、土地の流動化を阻害

- ・昔ながらの雰囲気が残るが、店舗と歩行者が少ない三交通り

- ・歩行空間が狭く、歩行者の安全性や車両走行性の低下が懸念される銀座通り

- ・駅にはにぼんプラザを結び歩行者が多いが、滞留空間がなく、多くが素通りしている駅西通り



※国土地理院基盤地図情報（令和元年9月4日時点）を加工し作成

□基本方針 まちの回遊を生む、歩いて暮らせる空間づくり

1 周辺地域や拠点間を結ぶ道路ネットワークの強化

- 1-1 駅前街区の整備に伴う車両通行の変化を想定し、**新たな幹線軸を整備**することで機能強化を図ります。
- 1-2 幹線軸間を結ぶ道路ネットワークを構築し、**車両動線を整理**することにより歩行者の安全性向上を図ります。

2 居心地の良いウォーカブルなまちづくり

- 2-1 本地区内に残る趣きのある道路空間を道路を**交流の軸として活用するための手法**を検討します。
- 2-2 自動車を主体とした生活様式が根強い一方で、本地区内の高齢化の進行や歩いて暮らせる環境を望む声などを踏まえ、車両と歩行者が多く利用する道路における両者の安全性の共存を図ります。

3 古き良きまちなみを活かしたまちの更新

- 3-1 本地区の特徴である、昔ながらの雰囲気を残すまちなみとして活かしながら、特に狭あい道路による課題の多い地区では、安全性の向上と土地の流動化を促します。

ウォーカブルとは??

- 街路や広場などの空間がひと中心の空間へと転換され、まちなかへ出歩きたくなることを言います。



千葉県柏市ストリートパーティー

イベント開催の状況は??

- 本庄駅北口周辺を中心に「NEXT商店街プロジェクト」によるイベント（ほんじょうマルシェ、本庄まちゼミ等）が開催され、商店街活性化や公共空間の利活用への機運が高まっています。

狭あい道路とは??

- 幅員4m未満の狭い道路で、日常的な通行だけでなく、消防や救急活動、住宅の更新に支障をきたします。
- 地区内の狭あい道路の割合**36.5%**

道路の整備計画

「道路ネットワークの強化」「ウォーカブル」「まちの更新」による暮らしやすさ・回遊の創出

1 地区内を結ぶ道路ネットワークの強化

1-1 新たな幹線軸としての強化

- ✓ 駅前街区の再整備による朝日通り側への出入口新設に伴う交差点の改良
- ✓ 駅前街区開発に伴う交通量増加を想定し、朝日通りと中山道を結ぶ道路を都市内幹線軸として整備・改良

1-2 幹線軸間を結ぶ道路の新設・拡幅整備

- ✓ 生活道路への過度な車両流入を防ぐため、幹線軸間を結ぶ道路の新設・拡幅整備の検討

2 ウォーカブルなまちづくり

2-1 新たな滞留や交流を生む歩行空間の整備

- ✓ 駅前広場整備と合わせた舗装や沿道照明等の美装化
- ✓ 三交通りや駅西通りでの新たな滞留や交流の創出に向けた道路占用制度等の活用の検討

2-2 既存の道路空間の見直しによる歩車共存

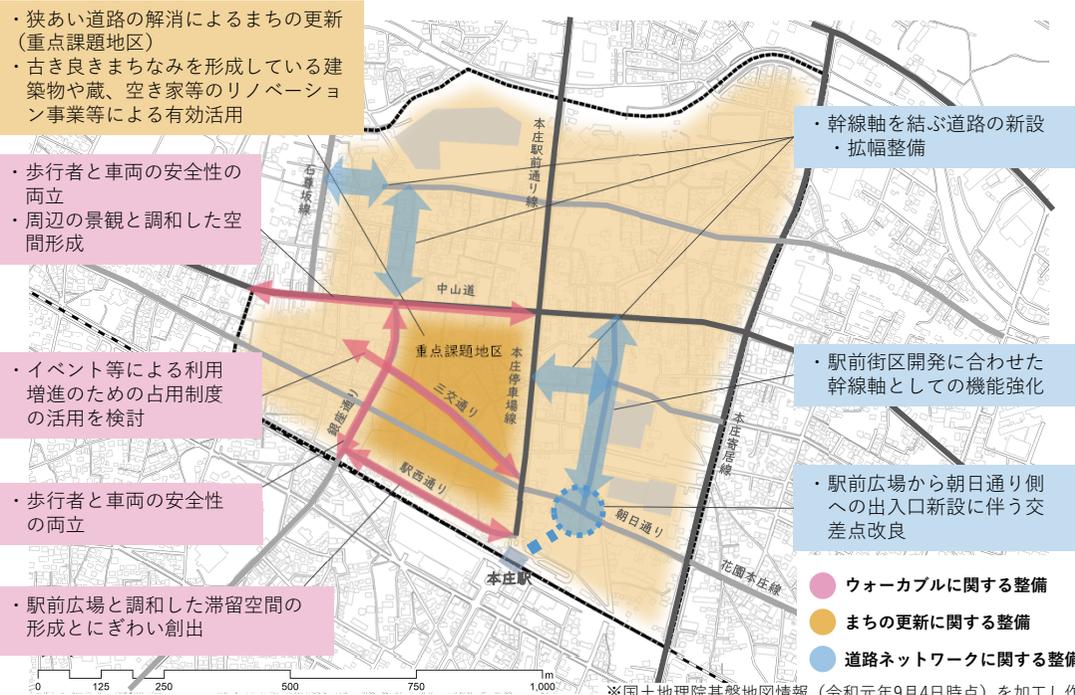
- ✓ 歩道が連続せず安全性が確保できていない銀座通りでの歩行者と自動車の安全性の両立に向けた改良の検討
- ✓ 無電柱化が進められている中山道でのゆとりある歩行空間の確保に向けた働きかけ

3 古き良きまちなみを活かしたまちの更新

3-1 狭あい道路の解消による安全性向上と土地の流動化促進

- ✓ 風情ある路地として、昔ながらの雰囲気を形成するものを活かすため、大規模な区画整理ではなく、部分的な解消により安全性を確保
- ✓ 特に土地の流動化が停滞している地区を重点課題地区と位置づけ、短期的な改善に向けた支援制度の適用等を検討
- ✓ 古き良きまちなみを形成する建築物の有効活用や、本地区内での増加が懸念される空き家等のリノベーションを促進

道路の整備イメージ



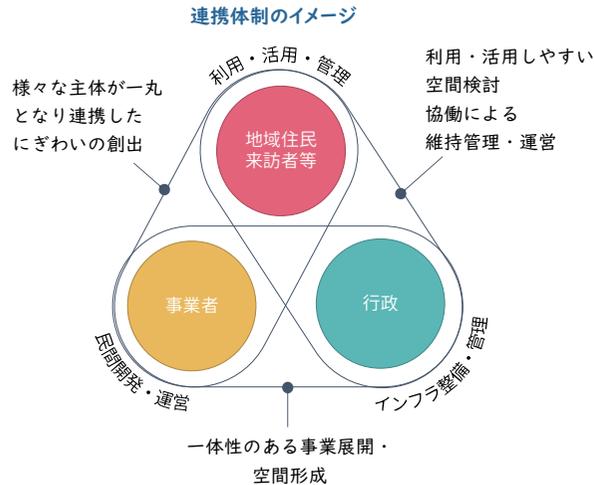
※国土地理院基盤地図情報（令和元年9月4日時点）を加工し作成

04 事業実現に向けて

事業推進に向けた連携体制

様々な主体の連携による事業推進

- 駅前広場や道路の整備等のハード事業による基盤づくりを行政主体で行った上で、**地域住民や来訪者、事業者、NPO等が主体的、持続的に活用していただける事業として進めます。**
- 今後の個別事業の具体化にあたっては、**社会実験等を行いながら整備後の活用イメージを地域住民等の利用者と共有し、より良い事業を目指し検討を進めます。**
- 開発用地の整備にあたっては、事業者へのサウンディング調査等を行いながら、その事業性に配慮するとともに、**公民連携による事業実施に向けた体制づくり**を図ります。



事業推進スケジュールと進捗管理

本事業の核となる「駅前街区」整備から「道路」整備へとつなげる事業展開

事業推進スケジュール

		短期 (概ね 5年)		中期 (概ね 10年)	長期 (概ね 20年)
駅前街区	駅前広場整備	関係機関協議・実施設計	整備		
	開発用地事業	事業手法の検討・調査 地元・地権者協議	整備		
道路	朝日通りと中山道を結ぶ 新たな幹線軸の整備	地元調整・警察協議 設計	交差点改良	経過観察 延伸改良検討	延伸改良
	駅西通り 美化・滞留空間の形成	事業化検討	関係者調整 設計	整備	制度運用
	三交通り 道路占用制度等の活用	事業化検討		制度運用	
	銀座通り 歩車共存に向けた改良	事業化検討	関係者・関係機関調整 設計	整備	
	中山道の無電柱化の促進		関係者・関係機関調整		
	大型商業施設の周辺に幹 線軸間を結ぶ道路の新設・ 拡幅	事業化検討	関係者・関係機関調整、設計	整備	
	重点課題地区を中心とし た狭あい道路の解消	事業化検討		合意形成、整備・改良	

※関係機関との調整等により、スケジュールが変更となる場合があります。

SDGsへの対応

持続可能なまちづくりへの貢献

2015年9月に国連サミットで採択された持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）のうち、本計画における以下の項目に寄与する取組みの積極的な推進を図っていきます。

開発目標

ターゲットと本計画における取組み



あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する

3.6：世界の道路交通事故による死傷者を半減させる。
⇒駅前広場整備における歩行者と車両動線の錯そう解消
⇒道路整備における歩車共存に向けた道路空間の再配分、通学路としての安全性確保

すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

4.a：子供、障害及びジェンダーに配慮した教育施設を構築・改良し、全ての人々に安全で非暴力的、包摂的、効果的な学習環境を提供できるようにする。
⇒開発用地における子育て世代や若者の利用を想定した機能への配慮

すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する

7.1：安価かつ信頼できる現代的エネルギーサービスへの普遍的アクセスを確保する。
⇒開発用地における事業での、積極的な省エネルギー対策の推進

すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を推進する

8.3：生産活動や適切な雇用創出、起業、創造性及びイノベーションを支援する開発重視型の政策を促進するとともに、金融サービスへのアクセス改善などを通じて中小零細企業の設立や成長を奨励する
⇒開発用地における民間開発の誘導、雇用機会の創出

都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする

11.2：脆弱な立場にある人々、女性、子供、障害者及び高齢者のニーズに特に配慮し、公共交通機関の拡大などを通じた交通の安全性改善により、全ての人々に、安全かつ安価で容易に利用できる、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供する。
⇒駅前広場整備による安全な公共交通機関の利用環境の形成

11.3：包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、全ての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。
⇒狭あい道路の解消による住宅更新、土地の流動化を促進

11.7：女性、子供、高齢者及び障害者を含め、人々に安全で包摂的かつ利用が容易な緑地や公共スペースへの普遍的アクセスを提供する。
⇒駅前広場や道路沿道における公共スペース、滞留空間の創出

11.b：包含、資源効率、気候変動の緩和と適応、災害に対する強靱さ（レジリエンス）を目指す総合的政策及び計画を導入・実施した都市及び人間居住地の件数を大幅に増加させ、仙台防災枠組2015-2030に沿って、あらゆるレベルでの総合的な災害リスク管理の策定と実施を行う。
⇒狭あい道路の解消による緊急時の避難や緊急車両の走行に配慮した道路環境への改善



本庄駅北口周辺整備基本計画

■令和4年1月 ■発行：埼玉県本庄市 ■編集：都市整備部 都市計画課
〒367-8501 本庄市本庄3丁目5番3号
TEL (0495) 25-1111 (代表) FAX (0495) 24-0242
URL <http://www.city.honjo.lg.jp> E-mail tosikei@city.honjo.lg.jp